

# 草の根・人間の安全保障無償資金協力

「ムジンバ県女子児童のための衛生環境整備計画」

署名式

2019年3月6日



写真：（左）ジョン・マキナ，オックスファム・マラウイ代表と柳沢大使  
（右）バンダ教育省初等・中等教育主任局長

2019年3月6日、柳沢香枝大使とジョン・マキナ、オックスファム・マラウイ代表は、「ムジンバ県女子児童のための衛生環境整備計画」に関する草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。本贈与契約署名式は、在マラウイ日本国大使館で行われ、バンダ教育省初等・中等教育主任局長も列席しました。

マラウイは、MDGsやSDGs等国際的に合意された目標に沿って男女初等教育へのアクセス促進を順調に推進しています。この好ましい傾向をさらに強化するために、同国はさらなる対策が必要であり、その一つは女子児童の安全で快適な学習環境を作ることです。男女は等しく小学校に通えますが、思春期の女子児童には特有の問題が存在します。特に農村部の学校では、生理中の女子児童の衛生環境は悲惨な状態であり、衛生施設の欠如は最終的に欠席増加の要因となります。

このような背景から、日本政府は、オックスファム・マラウイへ54,916米ドルの草の根無償資金供与を決定しました。この支援により、団体はムジンバ県の6,000人の女子児童を対象として、20の小学校にそれぞれ着替え室を備えた衛生施設を建設します。同団体はすでに、人々のニーズへの貢献で高く評価されています。

スピーチの中で柳沢大使は、ムジンバ県の対象小学校女子児童が継続的に就学でき、成功者になる夢を実現できるように、団体が効果的かつ効率的にプロジェクトを実施してくれることを期待すると述べました。また、個人的にも大使館としても、マラウイの少女および女性のエンパワーメントへの尽力にコミットしていることを再度強調し、プロジェクト完成後、ムジンバ県の女子児童の幸せな顔を見ることを楽しみにしていると伝えました。